

# 知っておきたいがんゲノム医療と遺伝子検査

## — 遺伝子コンパニオン検査と遺伝子パネル検査 —



「がんゲノム医療」という言葉を耳にしたことはありますか？  
がん細胞に生じている遺伝子の変化を調べ、その結果をもとに治療方法を検討する医療とされています。近年、遺伝子解析技術の進歩により、患者さん一人ひとりのがんの特徴に合わせた治療の可能性が広がっています。

### ■ 遺伝子コンパニオン検査と遺伝子パネル検査の違い

がんの治療では、遺伝子の変化を調べて治療方針を検討する検査が行われることがあります。代表的なものとして「遺伝子コンパニオン検査」と「遺伝子パネル検査」があります。

遺伝子コンパニオン検査は、特定の遺伝子変化の有無を調べ、その結果をもとに特定の薬剤が使用できるかどうかを判断するための検査です。特定の薬剤と関連して行われる検査であり、治療薬の適応を確認する目的で用いられます。

一方、遺伝子パネル検査は、複数の遺伝子を同時に調べ、がん細胞にどのような遺伝子変化があるかを幅広く確認する検査です。その結果をもとに、使用できる可能性のある薬剤や臨床試験などの治療選択肢を検討します。

このように、**遺伝子コンパニオン検査は特定の薬剤の適応を確認する検査であるのに対し、遺伝子パネル検査は複数の遺伝子を調べて治療の選択肢を広く検討する検査という違いがあります。**

### ■ 遺伝子コンパニオン検査と遺伝子パネル検査の費用

遺伝子コンパニオン検査は、特定の遺伝子変化の有無を調べ、特定の薬剤が使用できるかどうかを判断するための検査です。多くの場合、がんの診断や治療方針の決定のために行われ、**条件を満たせば保険診療として実施されることが一般的です。**検査費用は検査内容や対象となる遺伝子によって異なりますが、保険適用の場合は通常の診療と同様に**自己負担は1~3割程度**となります。

一方、遺伝子パネル検査は、がん細胞に生じている複数の遺伝子変化を同時に調べ、治療の選択肢を検討するための検査です。日本では2019年から一部の遺伝子パネル検査が保険適用となっており、**検査費用は約56万円（保険点数56,000点）とされています。**保険診療の場合、**3割負担の方では自己負担額は約16万8千円程度**となります。

ただし、保険適用には一定の条件があり、標準治療が終了しているなどの条件を満たす必要があります。条件を満たさない場合や研究・先進医療として実施される場合には、**自由診療となり医療機関によって異なりますが、自由診療では数十万円程度（筆者が確認した範囲では30万~100万円程度）の費用がかかる場合があります。**



参考  
国立がん研究センター がん情報サービス

<https://ganjoho.jp/>

※本資料は一般的な医学情報の提供を目的としています。  
検査や治療については医療機関で医師にご相談ください。



お客様にとって、地域 No.1 代理店を目指して  
株式会社 **保険デザイナー旭川**  
〒070-8004  
北海道旭川市神楽4条6丁目1-15

TEL : 0166-74-7081  
FAX : 0166-74-7082  
E-mail : [info@hoken-designer.jp](mailto:info@hoken-designer.jp)  
URL : <https://www.hoken-designer.jp>